

カトリック

広島教区報

No. 116

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教館内
TEL (082) 221-6017

ご復活メッセージ・じゃけえのう・列聖調査開始 一〜三面
世界平和記念聖堂関連
災害サポーターセンター・J-CaRM
地区・海峡からの風・一粒会
青少年・ひと粒
四面
五面
六・七面
八面

「仕える使命」

「教会へのチャレンジ」三年目

広島教区長 アレキシオ 白浜 満 司教

主の復活の神秘が、皆さんの心を喜びで満たしてくださいませように。新年度を迎えた広島教区の皆さんの上に、神様の豊かな祝福をお祈りいたします。

教会の三重の使命

主の復活の喜びのうちに、わたしたちの新しい年度の歩みが始まりました。広島教区において、二〇一九年度は「教会へのチャレンジ」のまとめの年でもあります。わたしたちは、主キリストから委託された、①人々の救いを祈る

「喜び」という尺度

ところで、教皇フランシスコは、「喜びがなければ、だれの心も引き寄せられない」(二〇一七年九月七日ボゴタにて)と訴えています。わたしたちが、



世界平和記念聖堂の桜

三つの使命をよりよく果たす教会として刷新されていくためにも、「福音の喜び」を噛みしめ、その喜びに生きることを、

主のご復活おめでとうございます

広島教区長 白浜 満 司教
司教総代理 荻喜代治 神父

教区本部事務局 平和の使徒推進本部 広島司教館	服部大介 神父 野中 泉 神父 豊田尚臣 神父 斎藤眞仁 神父	広島地区 山口島根地区 岡山鳥取地区 鞆町協働体(鞆町・東広島・翠町・呉)	(地区長) 荻喜代治 神父 (地区長) 肥塚修司 神父 (地区長) 山口道晴 神父 (鞆町主任) 荻喜代治 神父 (鞆町助任) バート 神父 (東広島主任) トウアン 神父 (翠町主任) アルベルト神父 (呉主任) 深堀升治 神父	西広島協働体(観音町・三篠・廿日市) 観音町主任 野中 泉 神父 観音町在 里カルド 神父 (三篠教区) 服部大介 神父 (廿日市主任) 金 櫻深 神父	鞆園協働体(鞆園・可部・三次・向原) 鞆園・可部主任 清水 弘 神父 鞆園・可部助任 高山 親 神父 (三次主任) 金 起煥 神父 (向原兼務) トウアン 神父	備後協働体(三原・尾道・福山) (三原主任) 西江和司 神父 (尾道・福山主任) アルナルド神父 (尾道・福山助任) フレデリック神父 山口協働体(山口・地福・防府・萩) (山口・地福主任) 百瀬文寛 神父	下関労働教育センター 下関協働体(細江・彦島・長府) (細江・彦島主任) 作道宗二 神父 (細江・彦島助任) デイン 神父 (長府主任) アルテリヨ神父	(山口助任) カンガス 神父 (山口協力) 桜井彦孝 神父 (防府主任) 朴 孝鎮 神父 (萩主任) 恩地 誠 神父	岡山協働体(岡山・岡山西大寺・ロザリ) 岡山・岡山西南主任 瀧井英昭 神父 岡山・岡山西南助任 ウィンセント神父 (日本語研修) ジョン 神父 (玉野主任) 猪口大記 神父 (津山主任) 金 洪錫 神父	倉敷協働体(笠岡・倉敷・玉島・水島) (笠岡主任) ブルニ 神父 (倉敷・玉島・水島主任) アンリ 神父 (倉敷・玉島・水島助任) ロイ 神父 (倉敷・玉島・水島助任) レイモンド神父 鳥取協働体(鳥取・倉吉) (鳥取主任) 山口道晴 神父 (倉吉主任) 野寄一夫 神父	イエスス会 庚午修道院 イエスス会 長束修道院 ヴェーメイヤー神父 曾根忠明 神父 裏汗洋二 神父 アレックス神父 河村剛 修道士 薬師勝士修道士 ヘンデリクス修道士 ホンテレー修道士 牧田真一修道士	岩徳協働体(宍戸・光・柳井・徳山・下松) (宍戸主任) 福田誠二 神父 (光・柳井主任) 肥塚修司 神父 (徳山主任) 柴田 潔 神父 (下松主任) 原田豊巳 神父	伯耆協働体(松江・出雲・米子・境港) (松江主任) 後藤正史 神父 (出雲主任) 金 起煥 神父 (米子・境港主任) 尹 兌榮 神父	石見協働体(津和野・益田・浜田) (津和野・益田・浜田主任) 山根敏身 神父 (津和野・益田・浜田助任) 大西勇史 神父
-------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	---	--



教皇フランシスコ

振り返りの尺度とすること
が大切です。教皇フランシ
スコが公布された三つの使
徒的勧告『福音の喜び』
(二〇一三年)、『愛のよ
ろこび』(二〇一六年)、
『喜びに喜べ(現代世界に
おける霊性)』(二〇一八
年)の中でも、そのことが
強調されています。

「喜びの福音」

わたしたちの教会の中に
は「喜び」があるでしょ
うか。復活節にあたり、聖
パウロの「フィリピの信徒
への手紙」の言葉を、改めて
心に刻みたいと思います。

「わたしたちの本国は天
にあります。そこから主イ
エス・キリストが救い主と
して来られるのをわたした
ちは待っています。キリス

トは、…わたしたちの卑し
い体を、御自分の栄光ある
体と同じ形に変えてくださ
るので。…主において
常に喜びなさい。重ねて
言います。喜びなさい。あ
なたがたの広い心がすべて
の人に知られるようにしな
さい。主はすぐ近くにおら
れます。どんなことでも思
い煩うのはやめなさい。何
事につけ、感謝を込めて祈
りと願いをささげ、求めて
いるものを神に打ち明けな
さい。そうすれば、あら
ゆる人知を超える神の平和
が、あなたがたの心と考
えとを、キリスト・イエ
スによってまもるでしょ
う」(フィリピ三・二〇～
二二、四・四～七)

「教会のチャレンジ」の
三年目を過ごしていくわた
したちは、このみことばを
振り返りのポイントにする
ことができるのではないで
しょうか。

復活してすぐ近くで働い
ておられるキリストととも
に生きる喜びを噛みしめま
しょう。そしてキリストと
ともに人々の幸せ(喜び)
を祈りつつ、キリストがも

たらされた喜びの福音をの
べ伝え、キリストのように
言葉だけではなく行為を
もって人々に奉仕し、神の
愛のよろこびを証しするこ
とができますように。

「福音宣教のための特別月間」へ向けて

教皇フランシスコが今年
の十月を、「諸国民への宣
教」を促すための特別月間
に制定されたことについて
は、前号でも触れました。

日本の司教団が公表した呼
びかけも「ともに喜びを
もって福音を伝える教会
へ」向かって内的刷新を求
めています。広島教区で
は、十月二十日(「世界宣
教の日」)に、各小教区で
一斉に「福音宣教のための
特別月間のミサ」をささ
げ、教会が喜びをもって
「諸国民への宣教」の使命
に生きることができるよう
に祈ることにしています。

同時に、この「福音宣教
のための特別月間のミサ」
の中で、来年の十一月二三
日に「教区代表者会議」を
開催することを宣言し、一
年間の準備に入ります。教
区創立一〇〇周年のあり

じゃけえのう

東ティモール訪問

「満天の星空のもとで」

二〇〇二年に独立した東
ティモール。殺戮や飢餓など
悲惨な歴史があり、独立後も
しばらく混乱状況が続きまし
た。二〇一五年七月、私は数
日間東ティモールに滞在する
機会に恵まれ、「いつか学生
による演奏会をしよう」と心
に誓い帰国しました。

この度念願がかない、二月
二十一日(木)から二十八日
(木)までの間、学生六人
(声楽、ピアノ、フルート二
人、トランペット、サック
ス)とイエズス会アント神父
様と梶山義夫神父様、キャン
パス・ミニストリー職員荒谷
さんと私とで東ティモールを
訪問し、「平和コンサート」
を行いました。現地では浦善
孝神父様と本学大学院修了生
サビオ君のお世話になりました。

「じゃけえのう」とは広島弁で
「だからね」という意味。

ました。聖イグナチオ学院と
リキサの教会では、ミサ中の
演奏奉仕も行いました。

最も印象的だったのは、聖
堂内で住民の虐殺があったリ
キサの教会前広場、満天の星
空のもとでの演奏会でした。
はじめは数十名しか聴衆がい
ません。ところが学生の演奏
が進むにつれて、初めてのク
ラシック音楽に引き寄せられ
たのか百名を遥かに超える
方々、赤ちゃん連れの親子や
子どもも沢山来て、私たちの
音楽に心地よく聴き入ってい
ました。また聖イグナチオ学
院の生徒たちも、クラシック
音楽の生演奏に感動していた
そうです。

終戦後、私たちは数多くの
海外からの宣教師により教育
環境が整えられ、教育水準が
高められました。エリザベト
音楽大学も同様です。今度は
そのご恩のお返しをする番だ
と思います。学生達がこの経
験を活かして、世界の人々に
奉仕する音楽家になることを
願っています。

(エリザベト音楽大学 理事
長・学長 川野 祐二)

方、また、その後の教区の方
 向性・優先課題などを一
 緒に考え、「ともに喜びを
 もって福音を伝える教会」
 を目指していくことができ
 るよう、具体的に示される
 ロードマップに従って、と
 もに準備に励みましょう。

教皇来日のために

教皇フランシスコご自身
 が今年の十一月(下旬)に
 来日の意向を示されました。
 日本の小さな教会を鼓舞し、
 世界平和に向けた取り組みを
 促してくださること
 と思います。その霊的な
 準備として、教皇来日の安
 全と豊かな実り、また世界
 平和のために、五月(聖
 母月)〜十月(ロザリオの
 月)の半年間、霊的な花束
 をささげて行く呼びかけ
 が、「平和の使徒推進本
 部」の方からなされること
 になっています。今の時点
 では、まだ広島へ来てくだ
 さるかどうか明確ではあり
 ませんが、わたしたちは、
 教皇フランシスコの来日を
 霊的準備によって支えてま
 いりましょう。
 皆さんのご協力をよろし
 くお願いします。

**津和野「乙女峠まつり」で
 列聖調査開始が宣言されます**

【趣旨】

長崎における信徒発見
 (一八六五年)後に、「浦
 上四番崩れ」(一八六七
 年)と呼ばれるキリスト教
 への弾圧が起こりました。
 江戸幕府によっておこなわ
 れた迫害は明治政府に引き
 継がれ、約三千三百名の浦
 上の信徒たちが捕縛され
 て、明治初期に西日本の
 二十藩(二十二カ所)に流
 配されました。そして、キ
 リシタン禁令の高札が廃止
 (一八七三年)されて、浦
 上に帰還するまでの間に、
 信仰を証ししていのちをさ
 さげた方々がいました。日
 本の社会に信教の自由をも
 たらす「一粒の麦」となっ
 たこれらの証し人たちを教
 会の公的な記念としたいと
 いう多くの声が寄せられて
 きました。これらの方々の
 生き方を顕彰し、信教の自
 由の精神を近隣諸国に広げ
 ていくため、キリシタン禁
 令の高札が廃止(一八七三
 年)されて百五十年目とな

る二〇二三年は一つの節目
 になります。

【列聖調査開始】

広島司教区は、日本司教
 協議会の同意と教皇庁列聖
 省の承認(二〇一九年二月
 五日)を受けて、この四月
 には「津和野の証し人列聖
 調査委員会」を発足させ、
 流配された浦上の信徒たち
 の代表(象徴)として、ま
 ず津和野の証し人三十七名
 の列福(列聖に向かう第一
 段階)のための公式な調査
 を開始する運びになりました。
 下記の通り、来たる
 五月三日(金)に開催さ
 れる津和野の「乙女峠まつ
 り」の中で、前田万葉枢機
 卿司式によって「列聖調査
 開始宣言ミサ」をささげま
 す。

【ご支援のお願い】

津和野の証し人の公式な
 調査のために有用と思わ
 れる資料(関係する書簡
 類、日記、メモ、書籍等)
 をお持ちの方は、広島教区
 事務局(TEL 082・221・

6017)までご連絡いただ
 けますと幸いです。また、
 この列聖調査を推進してい
 くため、広島教区は「明治
 初期・津和野の証し人 列
 聖推進協議会」を立ち上げ
 て加入者(法人会員・個人
 会員)を募り、祈りや献金
 (一年に一度)等による組
 織的なご支援をお願いして
 います。この推進協議会へ
 の加入をご希望の方も、広
 島教区事務局へお問い合わせ
 してください。案内の資料を
 お送りします。そして、随
 時に自由な形でのご支援を
 お願いするために、後日、
 パンフレットを作成して、
 今後の列福・列聖に向けた
 調査のための募金を呼びか

けたいと思います。このパ
 ンフレットの郵送をご希望
 の方も広島教区事務局へ、
 ご一報ください。

今後とも、この列聖運動
 のために、皆様のお祈りと
 ご支援をよろしくお願い申
 し上げます。

(カトリック広島教区列聖
 委員会委員長 白浜満司
 教)

【「乙女峠の証し人」の
 ホームページができた
 た】

キーワード「乙女峠
 の証し人」で検索する
 とご覧いただけます。

<https://tsuwano.catholic-hiroshima.jp/>



津和野 乙女峠まつり

前夜祭 5月2日(祝・木)
 浦上四番崩れ・流配信徒の物語
 ~明治カトリック再宣教の夜明け~
 時間: 19:00~
 講演: 大塚喜直 司教 (京都教区長)
 場所: 幼花園ホール (津和野カトリック教会となり)

2019年 5月3日(祝・金)
 10:30 聖母行列 (津和野教会~乙女峠)
 12:00 津和野の証し人 列聖調査開始宣言ミサ
 司式: 前田万葉 枢機卿 (大阪教区長)
 説教: 大塚喜直 司教 (京都教区長)

お知らせ

- 津和野での宿泊の予約は、観光案内へお問い合わせください。
- 津和野観光案内 (電話 0856-72-1771)
- 昼食弁当 (お茶付き 700円)
- ミサ後神服売テントにて引き渡し申し込みは、
くぼた弁当 (電話/FAX 0856-72-1139)
- つむぐSHOP (電話 0856-73-7028 / FAX 0856-73-7027)
- 峠より下りての昼食 (800円~1500円) をお望みの方は、
下り店と交渉してください。
- 遊 魚 (電話 0856-72-0162 FAX 0856-72-3246)
- 離外村ふる里 (電話 0856-72-1860 FAX 0856-72-2825)
- 沙羅の木 (電話 0856-72-1661 FAX 0856-72-0372)
- 雨天決行

津和野カトリック教会
 〒699-5605 島根県鹿足郡津和野町後田口 66-7
 電話 0856-72-0251 / FAX 0856-72-0282

「乙女峠まつり」のポスター

重要文化財 世界平和記念聖堂 蘇ったステンドグラス

司教座聖堂「世界平和記念聖堂」の保存修理事業は、三月末までに鐘塔の耐震工事など主要な工事が終了した。老朽化した重油ボイラーの暖房設備を廃止し、側廊に冷暖房設備を新たに設置した。八月の平和行事の暑さ対策として期待される。今後、内装の修復工事、電気設備工事、玄関ピロティや池廻りの補修及び修景工事、聖堂周辺の雨水排水工事などが八月末まで続く。

側廊のステンドグラスのテーマは「ロザリオの祈り」である。記念聖堂が「被昇天の聖母」を守護聖人として、聖母巡礼地のあるポルトガルなどから寄贈された。このステンドグラスの修復工事も完了した。破損したガラスや劣化した鉛のフレームの取り替え、消えかかっていた焼付けガラスの絵の復元など専門家の手により見事に復元された。同時に地震の時のガラスの飛散防止対策も施した。

一九八一年この聖堂に來られた教皇ヨハネ・パウロ二世は、「ロザリオは平和を築く道具」と常々話され、生涯を通して祈られていた。「私たちは緊張と白熱に満ちた国際情勢に直面しています。私たちが目にするのは、心に深い怒りが残っていて、新たに心からの対話をするなど出来ない時には、政治的な試みは何の力も持たないことです。いまだかつてなかつたほどに、世界中で神に向かつて平和への祈りをささげることが必要とされています。こういう見地から、ロザリオが特に適切な祈りであることが分かっています。ロザリオは平和を築く祈りです。それはまた、神の恵みを願うながら、祈る人のうちに良い種を蒔き、個人や共同体の生活に正義と連帯の実りが期待できるのです。私の思いは世界の国々に、そしてまた家庭に向かっています。家庭で聖なるロザリオが唱えられれば、家庭から始まって、世界の平和がどんなにか確かなものになることでしょう。」

記念聖堂のステンドグラス「ロザリオの祈り」は、このような「平和を築く祈り」である。私たちがステンドグラスの前に佇み、その絵の中にある事柄に想いを馳せ、記念聖堂が広島にあることの役割を学び、聖堂を訪れる多くの巡礼者や市民に「教会の平和」が伝えられるよう聖堂を活かして行きたい。



ステンドグラス ↓下：修復後 ↑上：修復前



左にある大天使ミカエルの顔が修復された全体的に色が鮮やかになっている

「ロザリオの祈り」は、

世界平和記念聖堂募金
郵便振替口座
口座名義：カトリック広島司教区
口座番号：01320-3-109791
*通信欄に「聖堂保存献金」と記入してください。

- 二〇一九年**
司祭・修道者のダイヤモンド・金祝・銀祝
- ◆**ダイヤモンド祝六十年**◆
 - 《援助修道会》楠木修道院
Sr.住田 絹江 一九五九年 二月二日 初誓願
 - 《援助マリア修道会》福山修道院
Sr.上田 靖子 一九五八年 九月二十九日 志願日
 - 《援助マリア修道会》長府修道院
Sr.森田 令子 一九五九年 五月八日 志願日
 - ◆**金祝五十年**◆
 - 《イエズス会》下関労働教育センター
Fr.林 尚志 一九六九年 三月十五日 叙階
 - 《福音の光修道会》広島修道院
Sr.田口 水子 一九六九年十一月二十三日 初誓願
 - Sr.岩元喜和子 一九六九年 八月十五日 初誓願
 - Sr.川岡 俊子 一九六九年 四月十三日 初誓願
 - 《純心聖母会》広島修道院
Sr.松尾トシ子 一九六九年 八月二十八日 初誓願
 - ◆**銀祝二十五周年**◆
 - 《広島教区》岩国教会
Fr.福田 誠二 一九九四年 三月十日 叙階

広島司教区
災害サポートセンター
倉敷市真備地区と三原市船木地区の支援

二〇一九年も西日本豪雨被災地への支援活動を継続しています。最近の活動から二つご報告いたします。

まず、広島・山口の小教区にご協力いただいた、真備町の箭田幼稚園卒園児たちに、手作りの入学セット（レッスンバッグなど約五十セット）を贈ることができました。園児たちはくじ引きをして、好みのセットを選んだそうです。

また、原田神父と信徒有志（福山教会、祇園教会、幟町教会、下松教



真剣な顔でレッスンバッグを選ぶ卒園児たち



花壇作りの様子

会）は三原市本郷町の船木地域支援センターを訪れ、花壇に花や野菜の苗を植えるボランティア活動に携わりました。初めて訪問した信徒もおり、スタッフの方から被災状況の説明も受けました。その他の活動については、教区のホームページにも掲載しています。ご覧ください。

聖書通読・写経キャンペーン
完了者紹介

通読を完了された方

第0003号

山神一高様（玉島教会）

第0004号

内海ひろ糸様（幟町教会）

2018年から開催中の通読・写経キャンペーンに皆さんもご参加ください。

J-CaRM広島便り
滞日外国人の隣人となる
防府教会 藤本忠文

二月二十四日、防府教会で「開かれた教会へ」滞日外国人の隣人となる」というタイトルで二人の講師の話がありました。講師は大坂教区シナピス事務局のビスカルド篤子さんと長崎教会管区の岩本光弘さんです。ビスカルドさんの話は、少し関西弁なまりの柔らかい言葉ですが、滞日外国人の問題処理の実例を多々あげられ、私たちももっと積極的に動かなければいけないと鼓舞されました。

岩本さんからは、長い経験の中で処理してこられた諸問題への取り組みや今も技能実習生の上昇に降るかかっている諸問題の処理方法について具体的に説明頂き大変役立ちました。

それとこの会議でとても嬉しく感じたのは、県内小教区から沢山の参加者があったことです。宣教師司牧者評議委員会を通して小教区の担当者や名前を依頼しても、中々集まらなかったのに、この度これほど多くの方が参加され、問題と知識を共有出来たことはこれからの活動に役立つと確信しました。

岩本さんが経験から会得された声掛け運動「ちゃんと勉強しているか、働いているか、給与はもらっているか、逃げたらだめよ、逃げて良くなることはないよ、途中で辞めたらだめよ」等を、実習生や留学生の顔を見たら積極的に話しかけようと言われたことも、大切な事と納得しました。問題を抱えた時に、本人は見も知らぬ人には決して相談をしません。

私の三十年の海外生活経験でも、教会で顔を合わせただけでは決して相談はしませんでした。実習生でも同じで、問題があった時に相談に乗ってあげられるよう、日頃の付き合いが大切で、岩本さんの声掛け運動はこの基礎を作っておけると言われたと思います。私の五年間のJ-CaRMの経験でも、相談を受けた問題で自分が処理出来たことは僅かです。全く対応出来ない問題が多々ありました。しかし荻神父様の下にJ-CaRM広島があり、小松さんのよう労働問題処理にベテランの方がおられるので、今回の勉強会は「自分で出来ない問題が発生した時でも、時間を失わず直ぐ連絡をして、チームの力で対応しよう」と声をかけることが出来る、これからの活動が実りあるものになる感じがしました。

技能実習生制度とは何か、現在在はどのような契約・規約があり稼働しているのかについて、知識の必要性を感じ、二月十四日、グローバルサポートセンターが福岡で開いた「管理責任者等」の講習会に参加し勉強をしてみました。一応の資格も習得しました。また問題が発生した時に関係する関係先の防府市役所（市民課窓口五又は十一）、防府警察署（外国人担当窓口は無いが、用件を話したら担当者には伝わるようになっていく）、広島入国管理局周南出張所に行き、私たちの活動を説明し、「何かあったら私たちにも連絡いただきたい」と協力を依頼しました。皆さんから積極的な対応を受けたと思っています。市役所からは、非常時対応マニュアル（英語、ベトナム語、中国語、韓国語）の提示を受けました。山口県庁が作成し、無料で配布されているものがあります。早速日頃話をしていくベトナムの実習生にミサ後見せ、市役所へ取りに行くよう話しかけました。彼が翌週ニコニコしながら、手にしたマニュアルを見せてくれました。（地区便り六ページにも記事を掲載しています。）

地区便り

山口島根地区

※平和アピール1981〜聖ヨハネ・パウロ二世来日記念行事

山口島根地区の正義と平和協議会は、三月二十四日(日) 防府教会において平和アピール1981の集いを持った。テーマは「開かれた教会へ〜滞日外国人の隣人となる」で、最近、各教会にベトナム人の技能実習生が増えているという現状を踏まえてのこと。参加者が八十四名もあり、関心の高さが伺えた。

講師に大阪教区シナピス事務局のビスカルド篤子さ



左から、全体会の進行をする中井神父と講師の岩本さん、ビスカルドさん

んと外国人技能実習生権利ネットワーク北九州の岩本光弘さんをお招きし、具体的な実践をお話しいただいた。滞日外国人をサポートできるネットワークの力があるのだと、勇気づけられた一日だった。今後、新たな活動が各小教区において始まるという期待に胸が膨らむ。

朴孝鎮神父様はじめ防府教会の皆さまには、大変お世話になりました。感謝です。

岡山鳥取地区

※災害支援は続けて・・・

二月十一日(月) 十二時から真備服部地区住民の集いの会がありました。被災し地区を離れている方や残っている方が顔を合わせ

て近況を語り合っていました。玉島教会ではおでんの炊き出し、配送、配膳などを行いました。雪が積もるお天気の中多くの方が集まりおでんはすぐに完食になりました。また、観音町教会、東広島教会と福山曉の星の中学校、高等



本日のメニューはおでん

学校、シスターからの支援品をお渡ししました。倉敷、水島、玉島教会ではメンバー十名程で毎週木曜日、羽黒神社を拠点に活動している災害ボランティア、ピースポーションティア、ピースポーションティア、ピースポーションティアで作業場所までの送迎を毎日している方もいます。災害地への支援活動はそれぞれの地域で続けていきたいものです。

広島地区

※第三十六回「広島キリシタン殉教者祈年祭」

本年度で三十六回目を迎えた「広島キリシタン殉教者祈年祭」が二月十一日(月・祝日)、執り行われました。当日は九時三十分より、己斐のノートルダム清心学園入口に建立されて

海峡からの風 52 下関労働教育センターだより

いつか芽を出せ 神様の愛

月に一度くらいの頻度で、海峡を渡ってある幼稚園に行きます。年長さんたちと一緒に「かみさまのおはなし」の時間を過ごさためです。

先日担当の先生から卒園児たちの塗り絵メッセージが届きました。「かみさまのことおしえてくれてありがとう」「かみさまのひらのおうたおしえてくれてありがとう」「ギターかっこよかったよ」「みえるものとみえないものをおしえてくれてありがとう」...

そう、この小さいけれど純真でキラキラしていて、トトロのように大人には見えなくなってしまう何かが見えている、このようなたすきな君たちの心の中に、神様の愛の種を蒔き続けたいのです。そのために一生懸命通っています。この地上からすでに始まる神の国に、君たちのための居場所があることを覚えていて欲しいのです。もう少し大きくなって苦しんだり、悲しんだり、誰かを好きになつたり、一人ぼっちでたまらなくなつた頃に、

時かれた種が芽を出して大人の君がもう一度神様と出会えますように。「かみさまのひらにわたしのなまえが書いてある。かみさまの手のひらにみんなのなまえがある。かみさまの手のひらはどこまでも広く深いから、だれだって必ずそこには居場所がある」って一緒に歌った歌が、心の深みに根を張りますように。

十四年後君たちが大人になる頃、どんな日本、どんな世界をわたしたち今の大人は用意しているのだろうか？少しでも美しい自然が守られ、平和で、互いを心にかけて合える、そんな平和の家にあなたたちを招待できるよう、努力していきます。世界平和記念聖堂を訪れ、そこで祈ったわたしにはその責任があるのだから。

「みえるものとみえないものをおしえてくれてありがとう」と書いてくれた君、見えないものを見る心が、いつかあなたを復活の主との出会いに導きますように。

主はまことに復活されます。アレルヤ!

(Sr.山本紀久代)



広島市西区己斐にあるキリシタン殉教碑の前で

いる「キリシタン殉教之碑」前で、白浜満司教様をはじめ三名の司祭が参列され、「広島キリシタン殉教者の碑」の歌(三上夕子作詞・作曲)と「広島キリシタン殉教者の列聖を求める祈り」を捧げました。近郊の各小教区より信徒・修道者約八十名が祈りに参列されました。その後、司教様をはじめ全員で約十五分の観音町教会まで徒歩巡礼しました。

島キリシタン殉教者祈念ミサ」が行われました。主司式は白浜司教様で司祭団は八名、祭壇の前には広島島の三人の福者(フランシスコ遠山甚太郎、マチアス庄原市左衛門、ヨアキム九郎右衛門)の額入り切り絵が掲示されました。

ミサ後の講話で白浜司教様は、三点を中心にお話しされました。①津和野の証し人三十七名の列福調査開始許可の申請がバチカンで正式に受理された旨を報告され、これから、広島教区の責任のもとに福聖調査を開始するが、最短でも五年はかかる見通しであること。②広島島の殉教者三名の列聖にむけて。彼らの生き方に学び、その精神を現代に生かそうとしている人々がたくさんいることと、彼らの取り次ぎを願って少なくとも、ひとつの奇跡(しるし)が必要であること。そのため



殉教祈念ミサの様子

に広島島の三名の殉教者の取り次ぎを願って祈ること。もし何かしるしがあったら広島教区事務局に連絡すること。③現代における聖人の三つの区分、(1)証聖者(2)殉教者(3)愛の為に命をささげた者。そして、現代のわたしたちにとって、これら三つの生き方に通じる小道について、イエスのことば(マタイ16、24-25)を引用して話されました。

その後、信徒会館(ヨゼフ館)に移動し、お茶と軽食をとりながら、参加各小教区の紹介をし、楽しく分かち合いをして午後一時終了しました。

広島教区二粒会
神学科二年
伊藤 正広 神学生



皆様、こんにちは。神学生のヨゼフ伊藤正広と申します。出身は広島市の翠町教会です。多くの人に支えられ、東京の神学院にて二年間の哲学科の勉強を終え、この四月より神学科に入りました。広島教区の皆様には、未熟な私をいつも忍耐強く見守って下さり本当に感謝しております。

神学生になり、人から「どうして神父を目指したの?」と尋ねられる機会が増えました。「様々な方々との出会いに導かれて召命を感じ、今日に至っています」とお決まりの返事ばかりしていますが、一生懸命考えても心の中には自分にも説明できない神秘の部分が残ります。ただ確かだと思えるのは、たとえどんな時代にあってもキリストの愛にこそ人生の答えがあると信じている事です。私とカトリック教会との最初の出会いは十代の時で、幟町教会内にあるパウロ書院でした。シスターの皆様の雰囲気にか強い印象を感じた事は今でも覚えています。今思えば、心の渇きが癒されるような感覚だった気がします。その後、偶然の出会いや出来事の連続によって、今日に至っているわけですが、要するにこれが神の導きと言えるものなかもしれせん。

最近、家庭や社会の中で、祈る風景がどんどん無くなってきたのではなにかと感じます。「主の死を思い、復活をたたえよう、主が来られるまで」このような時代の中でこそ、あらゆる絶望に打ち勝つキリストのご復活に絶えず希望を置き、微力ではありますがキリストの愛を運べたら幸いです。どうか今後とも宜しくお願い致します。

青少年の活動

NWMin広島

二月九日から十日にかけて、ノートルダム清心女子大学一宮校舎（岡山県岡山市）にて、第三十六回ネットワークミーティングin広島が行われ、全国から約一四〇名が集いました。ネットワークミーティング（以下、NWMin）とは、情報交換と交流を目的として年二回、教区持ち回りで開催されています。



「人の優しさという粒を受けて、私の召命が生まれた」

エリザベト音楽大学 専任講師
イエズス会
フランシスコ・アント神父

私は一九七六年にインドネシアのジャワ島の中部に生まれ、プルハスタントという名前を頂きました。ジャワ人の習慣で一つの名前しか得られなかったが、幼児洗礼の時にフランシスコ・ザヴェリウス（ザビエルのフランシス



コ」という霊名に名付けられました。普段の生活ではフランシスコ・アントと呼ばれています。私の召命は他人の優しさという粒を受けて成長したものです。これは神様の贈物であると思っています。小学校四年生の時、侍者の集いを世話するイエズス会のブラザーと出会いました。このブラザーの心優しさと寛大さを体験することによって、神父になりたいという気持ち

今回のテーマ「いつてかえりい」のもと、広島教区の青年達で一年間かけて準備をしてきました。今回代表を努めさせていただいた私の実家が「お花屋さん」だからか、お花が大好きという私の一つの思いから、テーマソング、プロモーションビデオ、祈り、わかちあいと、どんな形になってもいいました。テーマには、神様は私たち一人ひとりのことが大好きで、それぞれのことに、それぞれにかまかせることのできないステキな花（心）があり、その花は

必ず咲く。そのことに気づき、また相手もそうであることに気づける人が増えたら、神様の望まれるきつと温かな世界が、ステキな花束がいつか作られるはず…そんな願いを込めました。参加者のみなさんの喜びに満ちた笑顔が忘れられません。ここNWMinは青年にとって、戻ってくる場所であり、派遣されていく場所です。小さい集まりかもしれないけれど、こうして同じ信仰を持つ私たち青年が「集まがします。そして、多くの人と

出会うことで、みんなの心の花が喜びに満たされ、「出会いの花」がポツポツと咲いていることと思います。準備するにあたり、広島教区でのNWMin開催は七年ぶりでした。青年も新しく入れ替わり、全国の青年を迎えることが初めてで若手の青年達はドキドキだったと思います。NWMinを通して、大勢の青年と関わることで刺激を受け合いながら、これからの小教区での青年活動、広島教区内での青年活動をする活力になってくれたらと思っています。わたし自身、

四年前に初めて参加して以来、憧れの場所であり、青年活動の原点の場所となっています。私たち青年のためにいつもご理解と、お祈りくださり支えてくださったすべての方に感謝いたします。広島教区の信徒の皆様が支えがあつてこそ、私たちは活動できています。これからも、私たちのために祈りください。

（実行委員長 中塚汐音）



参加者全員での集合写真



復活祭を迎え、気持ちは一変したものの、キリストのみ心にかなうよう行動するにはどうすればいいか自問自答している。新しい元号も間近にせまり、心揺らぐ毎日である。（ぎん）